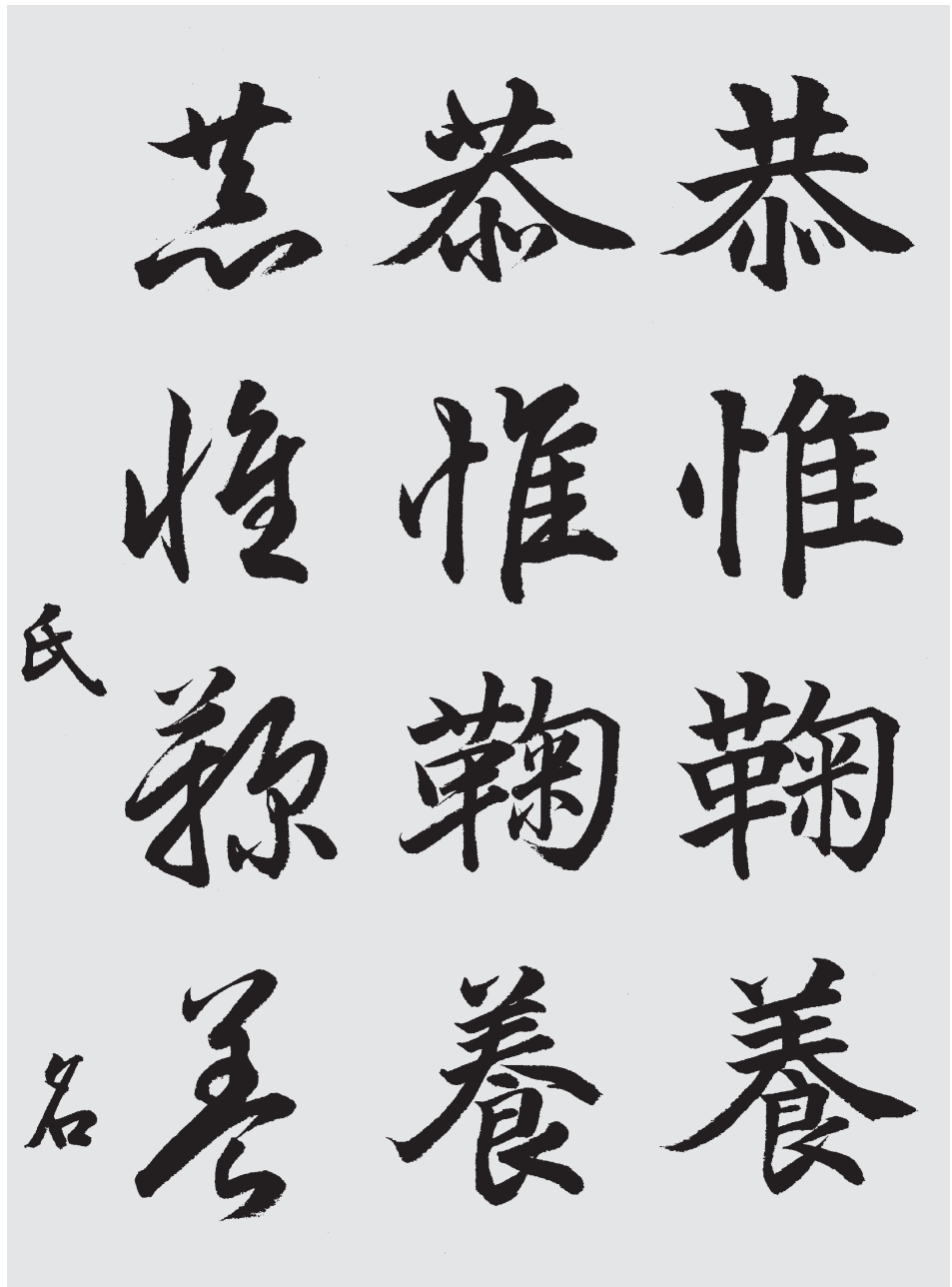


三体千字文を書く (39)

締切り 三月二十二日 (必着)



奥村憲照先生書

回作品の出し方

- ▼硬筆部 B5判 (二五七mm×一八二mm) 以下の紙に書いて下さい。用具は自由です。(黒色に限る)
- ▼毛筆部 B半紙に書いて下さい。(筆ペン可)
- ▼出品制限の対象とはしませんが、出品は硬毛のどちらか一方に限ります。
- ▼事務処理上、支部略称・氏名・会員番号・硬筆規定の成績(毛筆の場合は毛筆漢字の成績)を、作品余白にお書き下さい。
- ▼優秀作品は、写真版として成績表の後ろに掲載しますが、成績表での順位発表はしません。

◆硬筆の専門誌だった大書心に一般毛筆部が設立されたのは、昭和五十六(一九八一)年四月のことです。

◆「三体千字文」課題からスタートし、

憲照先生の穩健中正で気品のある手本が好評を博しました。

◆短期特別課題として、平成二十四年一月から二年間と平成二十八年の一年間学びましたが、今回はその続きです。

◆原点に戻って、基本用筆と正しい崩し方をしっかり学びましょう。

〔千字文〕

四言古詩二五〇句、重複しない千字からなっており、聖徳・修養・修身・齊家等について述べられた習字手本であり、初学者の教科書でもあった。

梁の武帝(在位五〇二〜五四九)の命を受け、周興嗣が王羲之の筆跡中からまとめたといわれる。

〔解説〕

恭 惟 鞠 養

豈 敢 毀 傷

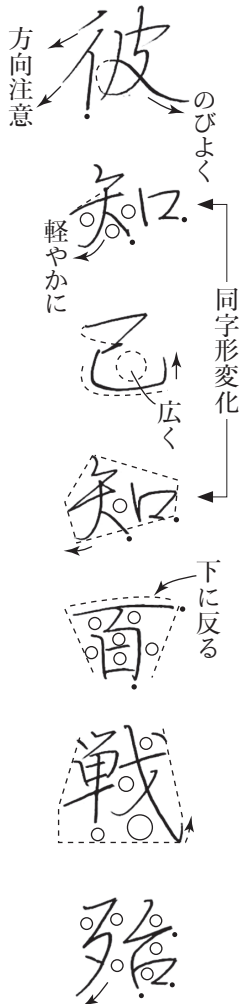
恭しく、自分を養い育てた親の恩を思い、子として身を損うことなく、

準初段から六段まで

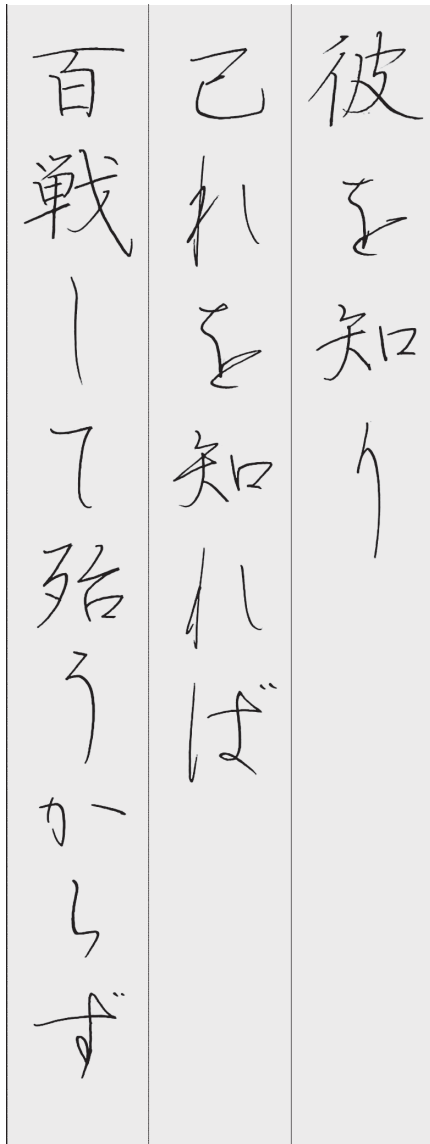
新入から1級まで

〔解説〕

〔解説〕



▶教範・書範は右課題を「楷書」で、師範は「行草または草書」で出書して下さい。



あら い りゅう ほう 書  
新 井 龍 峰 書

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会段位用紙



ふる た ずい えん 書  
古 田 瑞 苑 書

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会級位用紙

- ◆4月課題予告(楷書)  
自ら労して  
自ら食うは  
人生独立の本源なり
- ▼教範・書範⇨行草または草書
- ▼師範⇨行書

★彼を知り：(書体⇨行書)  
孫子 中国の兵法書  
「彼を知らずして己れを知れば一勝一負す。彼を知らず己れを知らざれば戦うことに必ず殆(あやう)し」とつづきます。相手を知らず自分だけ知っているのみでは勝ったり負けたりし、両方知らないのなら必ず危ういという事です。  
対人関係や商売上の取引きにしても、両者のすべてを知り尽くしていることは、相互に人間味をもって理解しあえるでしょう。

◆4月課題予告(行書)  
まず絵筆をとって  
描き始めること  
レンブラント

★約束も：(書体⇨楷書)  
西岡光秋(一九三四)  
作家・評論家  
春になるとなんの約束もしたわけでもなく待ちかねていたように花が一斉に咲きはじめます。  
人の出会いや出来事も約束などありません。明るい出来事もあればまた辛い事もあります。  
人は常に明るさを求めて生きています。何ひとつ意図しないところに降ってわく明るさほどうれしい事はありません。  
春の季節は、それを教えてくれるのです。

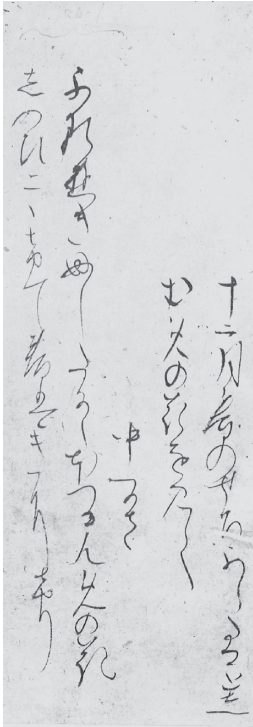


締切り 三月二十二日(必着)

築瀬舟香書

〔古筆参考〕

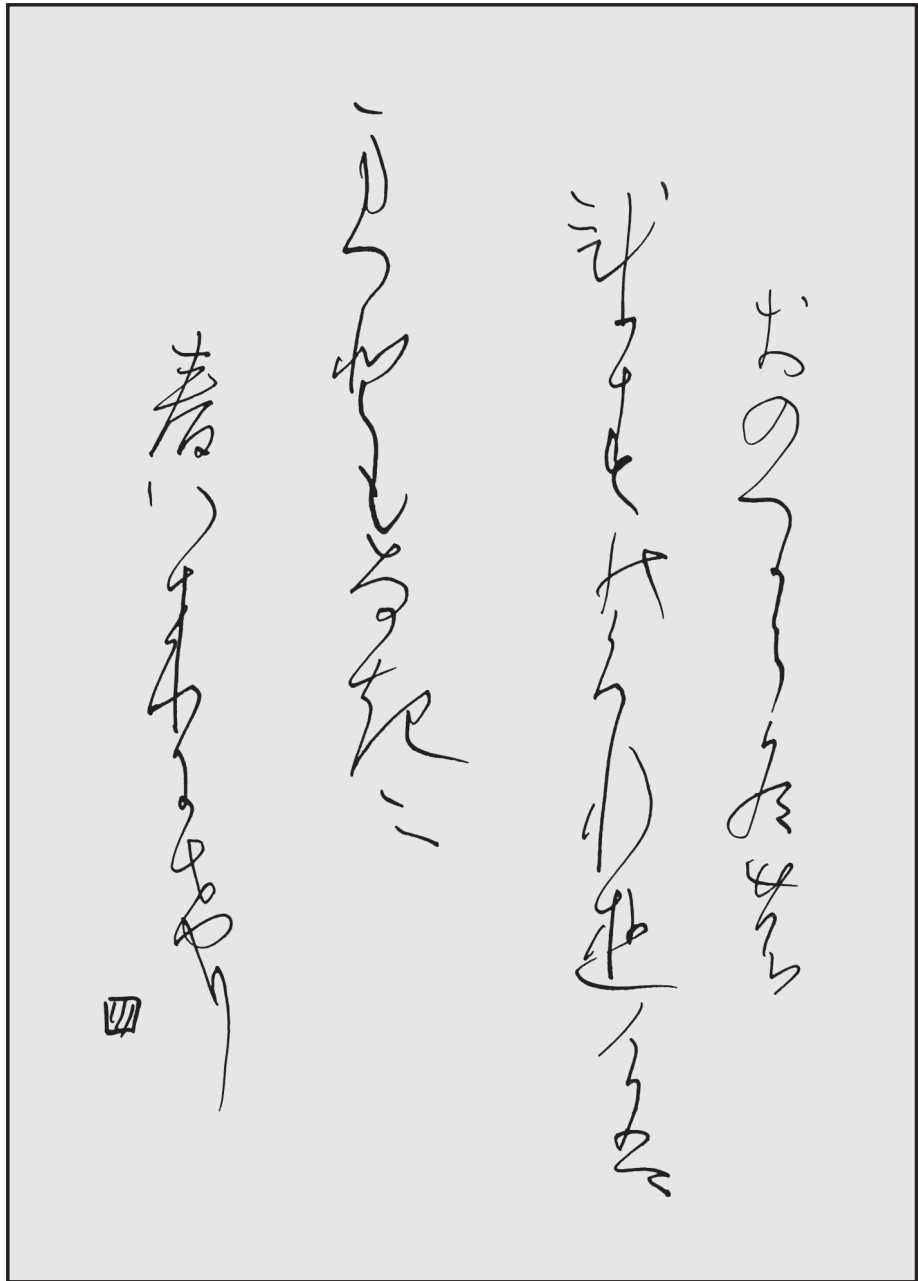
こうしぎれ  
香紙切



十二月春のせちぶしたるとし  
むめの花をみて  
中つかさ

十二月春のせちぶしたるとし  
むめの花をみて  
中つかさ

志 類 遊 母 多 尔、本 志  
ふるゆきもしたにほへるんめの花  
しのびに、げて春はきにけり



〔解説〕



〔解説〕

〔出典〕 近世和歌集

(日本古典文学大系)

おのづから冬の日かずの暮れゆけば  
まつともなきに春は来にけり

〔歌意〕 自然と冬の日数のたつにつれて特に待っているわけでもない春が来てしまった。

- ①と②、①と③、①と④、①と⑤、①と⑥、①と⑦、①と⑧、①と⑨、①と⑩、②と③、②と④、②と⑤、②と⑥、②と⑦、②と⑧、②と⑨、②と⑩、③と④、③と⑤、③と⑥、③と⑦、③と⑧、③と⑨、③と⑩、④と⑤、④と⑥、④と⑦、④と⑧、④と⑨、④と⑩、⑤と⑥、⑤と⑦、⑤と⑧、⑤と⑨、⑤と⑩、⑥と⑦、⑥と⑧、⑥と⑨、⑥と⑩、⑦と⑧、⑦と⑨、⑦と⑩、⑧と⑨、⑧と⑩、⑨と⑩、それぞれ呼応。
- 余白大切。
- ∟ 線の方向大切。
- 粗密大切。

◆4月課題予告

梅の花をりてかざして磯の神  
ふりにしことをしぬびつるかも

締切り 3月22日(必着)

暦の上では、早くも啓蟄を過ぎ、冬ごもりの虫たちも、姿を現す季節となりました。小川の水もぬるみ始め、魚たちもいきくと泳いでいます。四月からの新生活どうか元気に頑張ってください。

作品の出し方

- 新入から師範まで、どなたでも出書できます。成績は評価により毎月変わります。
- 用紙はがき課題ははがき用紙、横書き課題は一般部段用紙を横に使用。
- 用具はがき、横書き課題ともに自由。(黒色に限る)
- 両課題とも、書体変換は自由です。

※手本は水性ボールペン使用

暦の上では、早くも啓蟄を過ぎ、冬ごもりの虫たちも、姿を現す季節となりました。小川の水もぬるみ始め、魚たちもいきくと泳いでいます。四月からの新生活どうか元気に頑張ってください。

横書き課題

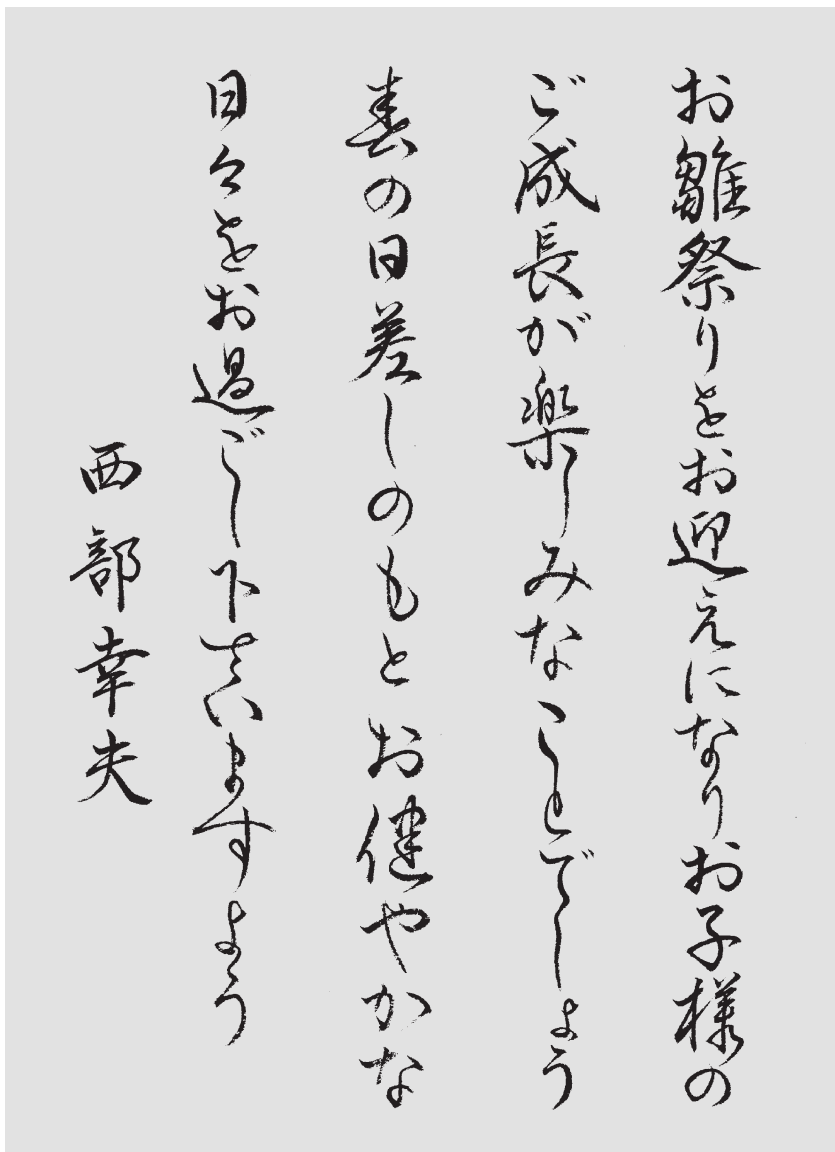
甲骨文は中国最古の文字で、亀甲  
獣骨に刀で刻み、残されている。

北海道小樽市 氏 名

※手本はつけペン使用。 ★三行目は、指定の地名と氏名を書いて下さい。

一般部毛筆細字課題

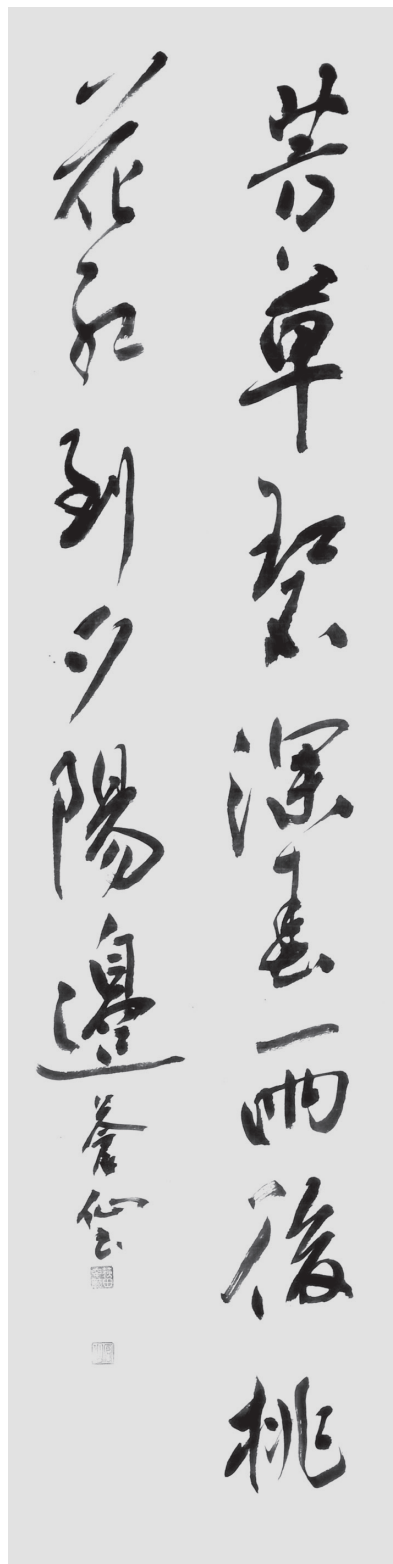
一般部毛筆条幅課題



西部幸夫

半紙 (334mm × 240mm)

書香梅藤伊



締切り 三月二十二日 (必着) 半切 (一三六cm × 三五cm)

荻田蒼仙先生書

芳草碧深春雨後

桃花紅到夕陽邊

陳襄

〔大意〕春の草の緑は雨の後更に濃く、桃の花は夕日の照らす所が一段と赤い。

初出品の方へ

支部名・会員番号・姓名・毛筆漢字成績を、作品左下に必ずお書き下さい。

〔条幅解説〕

歌舞伎の人間国宝の方が踊りを楷書で踊るよう  
に指導したと聞きます。書も同じく基本の楷書を  
疎かにしてはいけません。また行草体をうまくデ  
フォルメしたつもりでも、作品として崩れていない  
か指導を受ける事が大切です。書道界を見渡して、  
師やコワイ人がいないと、この傾向になりがちです。  
一人よがりにならないで謙虚に学びましょう。

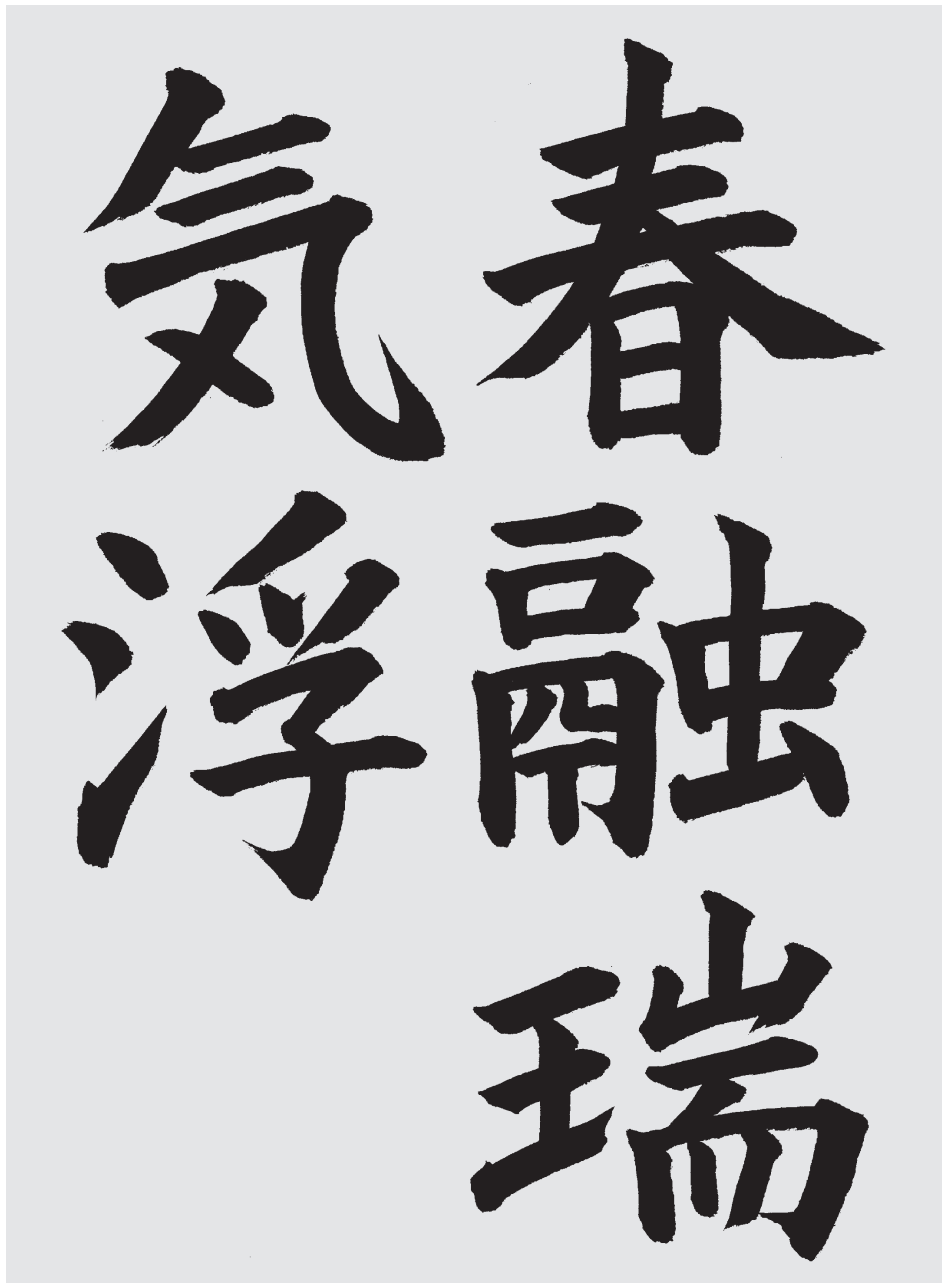
- ・お雛祭りをお迎えになりお子様のご成長が楽しみなことでしょう
- ・春の日差しのもと お健やかな日々をお過ごし下さいますよう
- ・印で墨つぎしました。(ご自分の氏名)

〔条幅・細字作品の出し方〕

- 新人から師範まで、どなたでも出書できます。
- 成績(天位〜5等)は、評価により毎月かわります。
- 書体変換、変体仮名の交換は自由です。



新入から1級まで(楷書)



清し  
水  
翠  
芳書

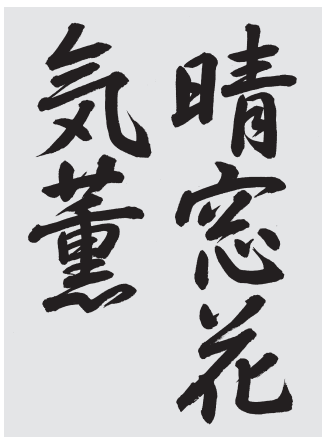
はるやわらぎすいきうかぶ  
春融瑞氣浮

〔大意〕春は融々として四方に瑞祥の気が浮動する。

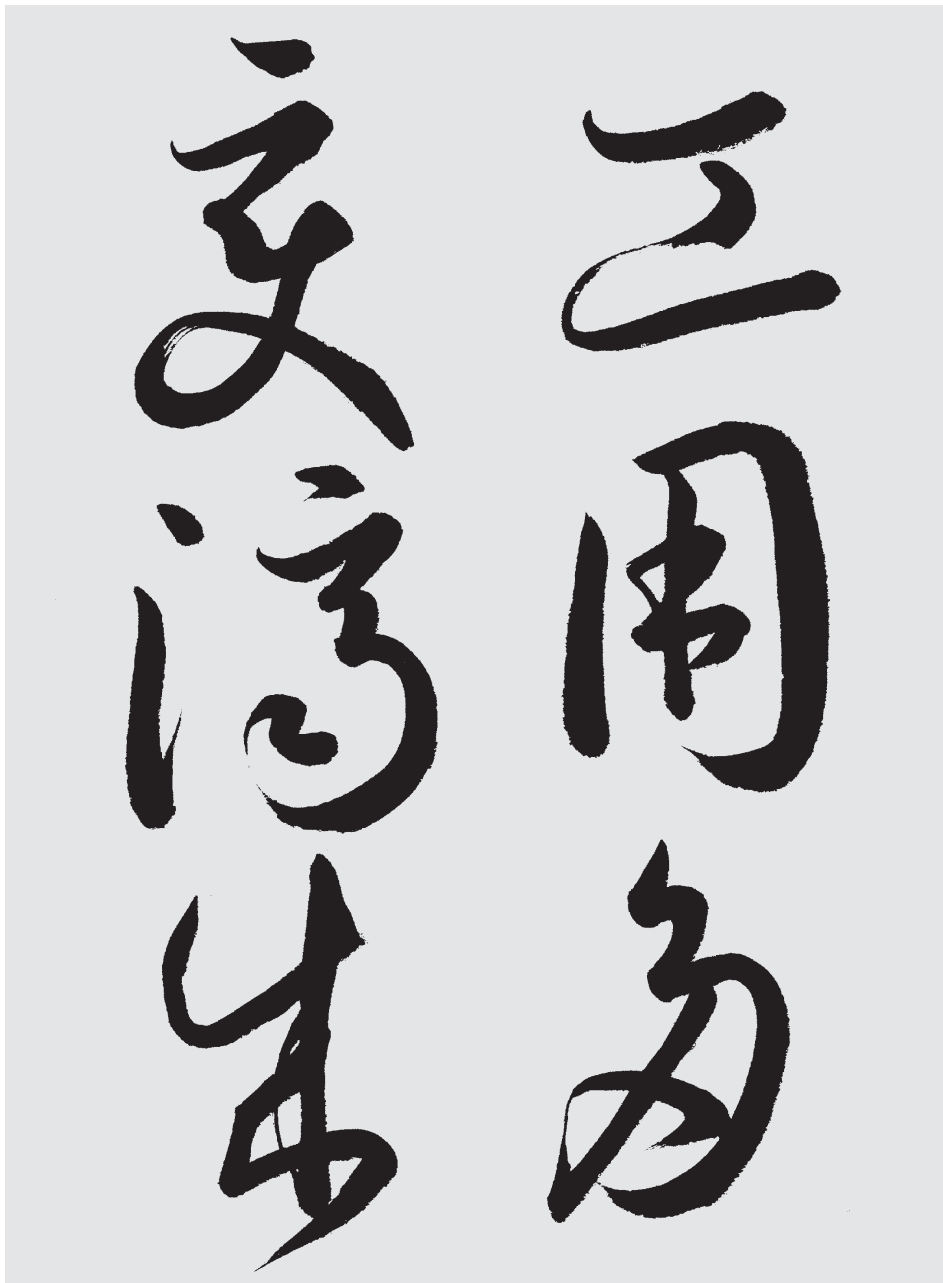
〔解説〕



◆4月課題予告(行書)

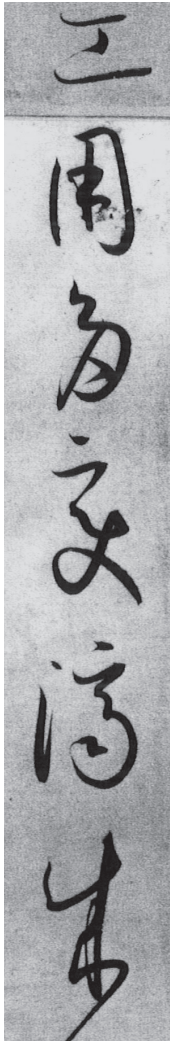


準初段から師範まで



須田一葉臨

工  
用  
多  
變  
濟  
成

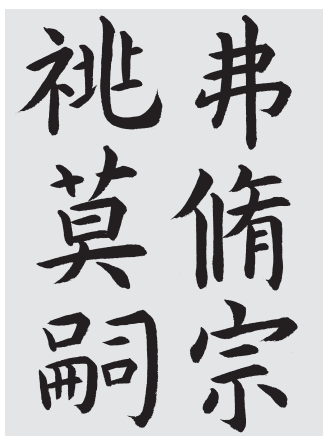


〔出典〕書譜(六八七)  
〔筆者〕孫過庭(六四八?~七〇三?)  
〔読み〕工用多變(なりと雖も、厥の美を) 済成するに、

〔解説〕



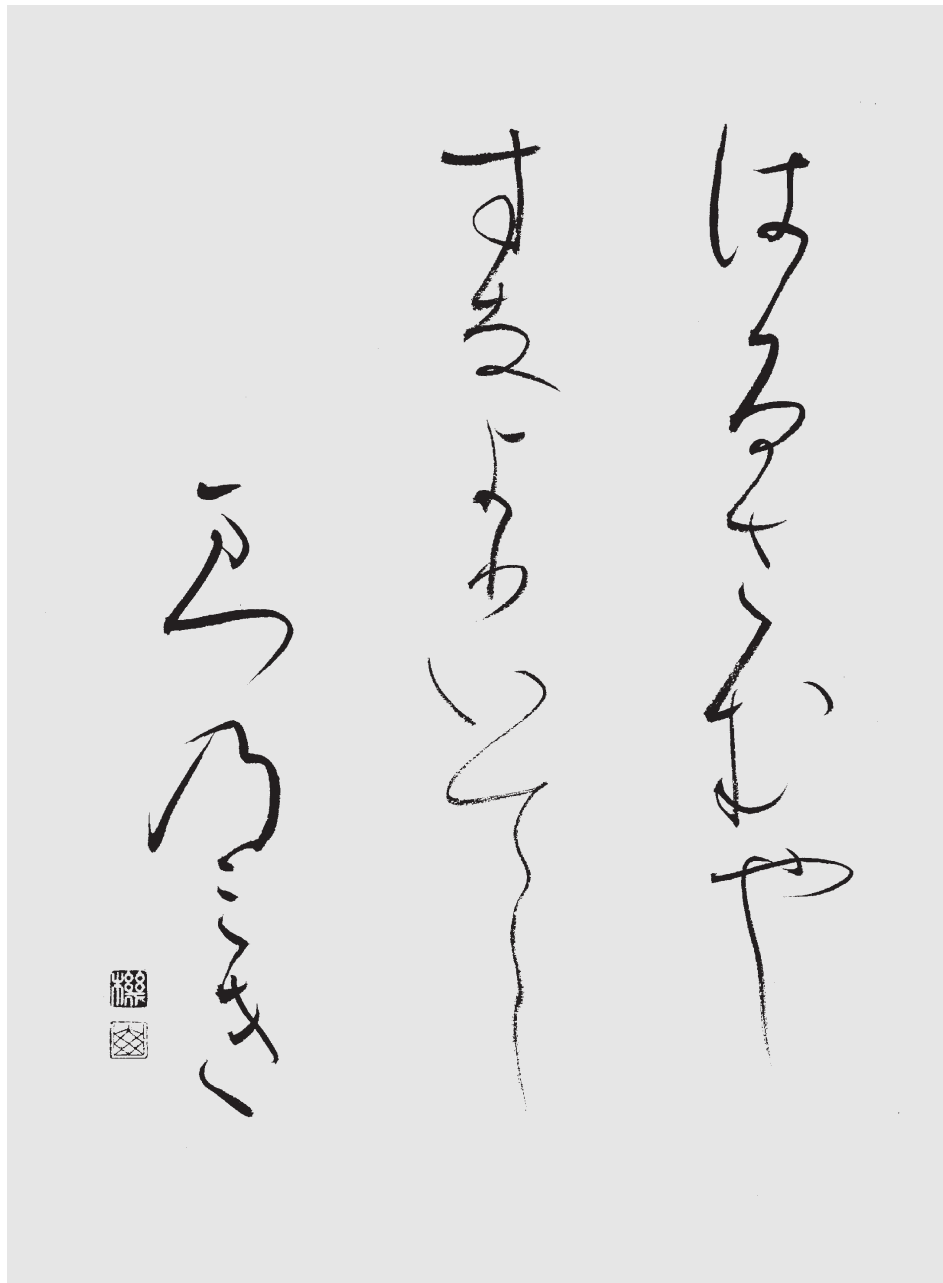
◆4月課題予告  
※文献によって字体が異なる場合があります。





新入から1級まで

浅井機山先生書



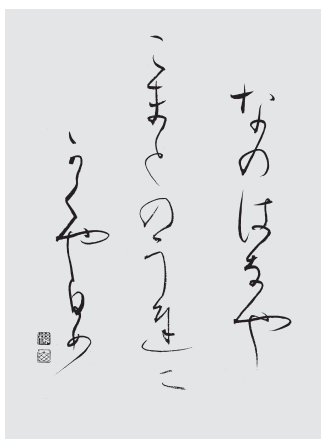
はるさむ 春寒  
 や すな 砂より  
 出てし 利い  
 松の 万つ乃三き  
 幹 たかはまきよし  
 高浜虚子

〔句意〕 浜辺に松の大樹が立っている。砂よりぬきん出たその幹は荒々しい。春とはいえまだ肌寒く感じられる、の意。

〔古筆参考〕

奈な 奈なふふふ  
 利り わわわわわ  
 万ま 万万万万  
 乃の 乃乃乃の  
 三み 三三三三

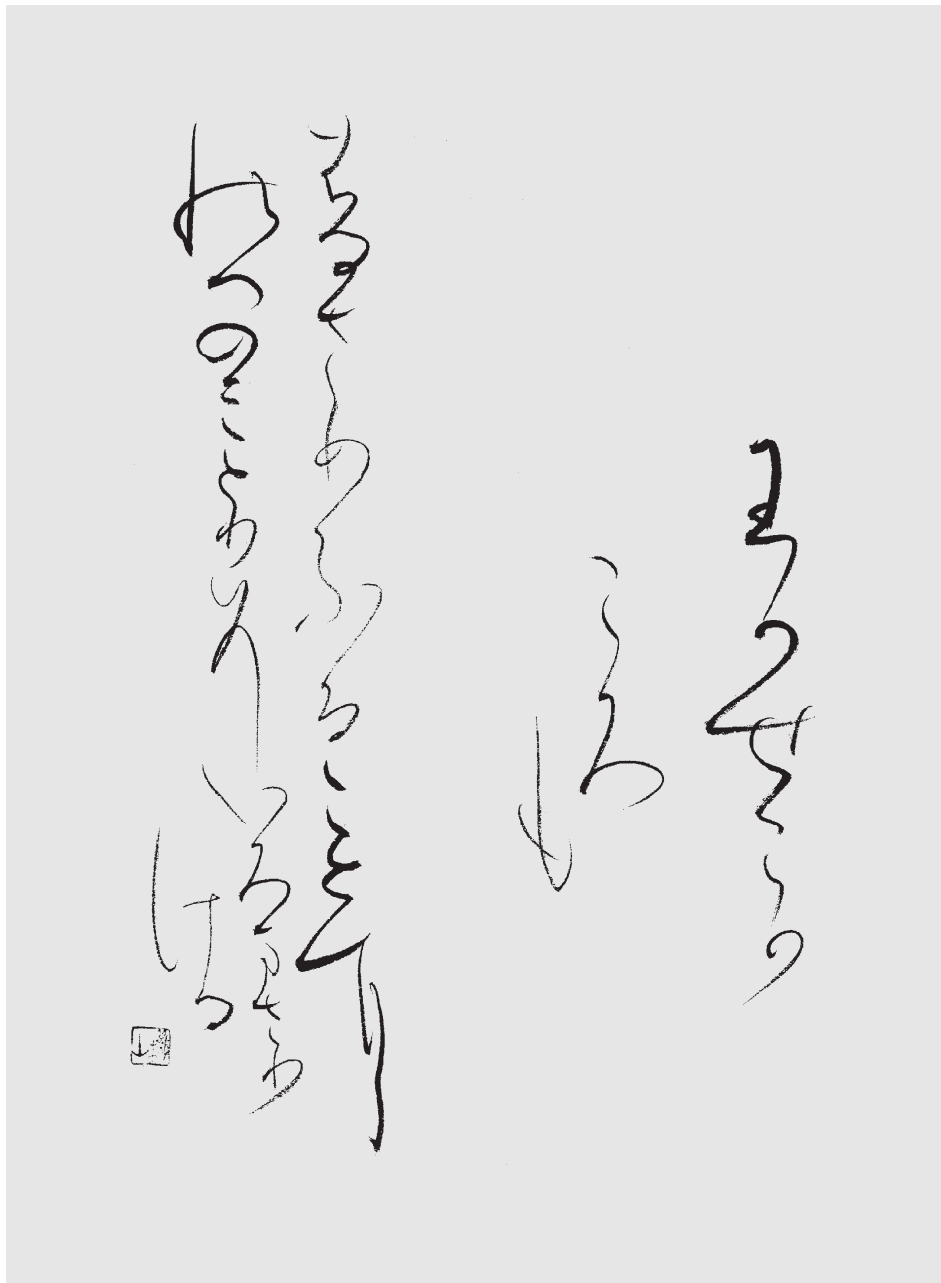
◆4月課題予告



菜の花や小窓の内にかぐや姫

準初段から師範まで

浅井機山先生書



我<sup>王可</sup>せ<sup>可</sup>こ<sup>可</sup>が<sup>可</sup>こ<sup>可</sup>ろ<sup>可</sup>も<sup>可</sup>は<sup>可</sup>る<sup>可</sup>さ<sup>可</sup>め<sup>可</sup>降<sup>可</sup>る<sup>可</sup>毎<sup>可</sup>に<sup>可</sup>

の<sup>能</sup>べ<sup>能</sup>の<sup>能</sup>み<sup>能</sup>ど<sup>能</sup>り<sup>能</sup>ぞ<sup>能</sup>色<sup>能</sup>ま<sup>能</sup>さ<sup>能</sup>り<sup>能</sup>け<sup>能</sup>る

紀貫之

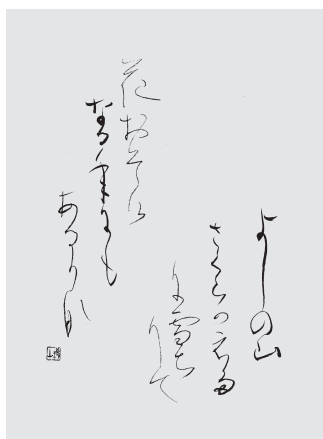
〔歌意〕

わが夫の衣を張る、そのハルという春雨の降ることに、野辺の草は育てられて、緑の色がひたすらに増さってゆくことよ。

〔古筆参考〕

可<sup>か</sup>ろ<sup>ろ</sup>ろ<sup>ろ</sup>ろ<sup>ろ</sup>  
 者<sup>は</sup>者<sup>者</sup>者<sup>者</sup>者<sup>者</sup>  
 耳<sup>に</sup>り<sup>り</sup>り<sup>り</sup>り<sup>り</sup>  
 能<sup>の</sup>能<sup>能</sup>能<sup>能</sup>能<sup>能</sup>能<sup>能</sup>  
 利<sup>り</sup>り<sup>り</sup>り<sup>り</sup>り<sup>り</sup>り<sup>り</sup>  
 曾<sup>そ</sup>そ<sup>そ</sup>そ<sup>そ</sup>そ<sup>そ</sup>そ<sup>そ</sup>

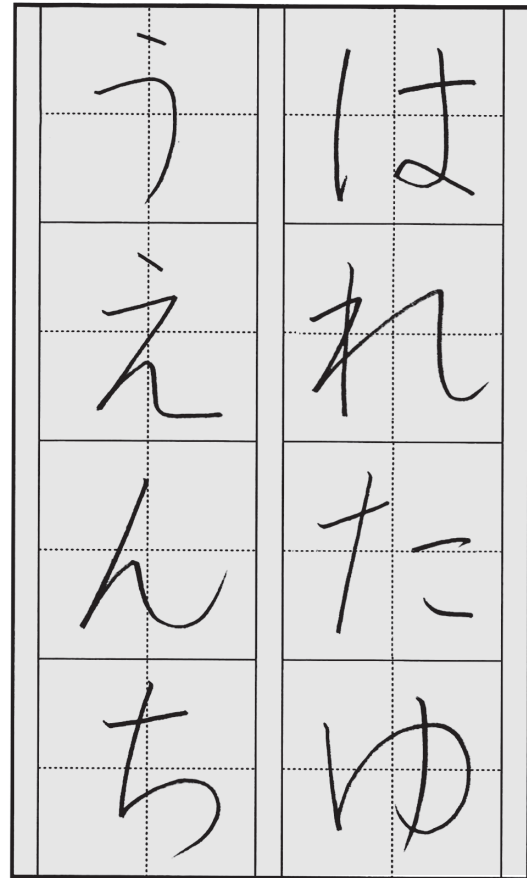
◆4月課題予告



吉野山桜が枝に雪散りて

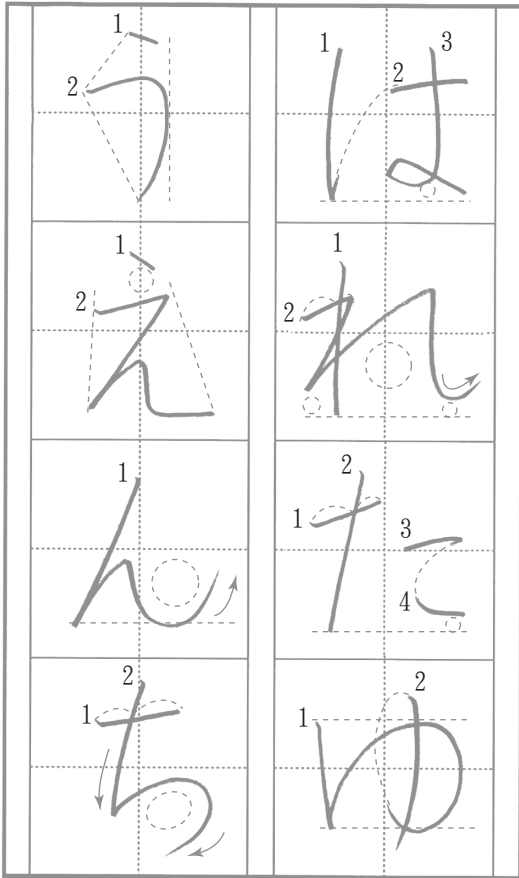
花おそげなる年にもあるかな

よ  
う  
年



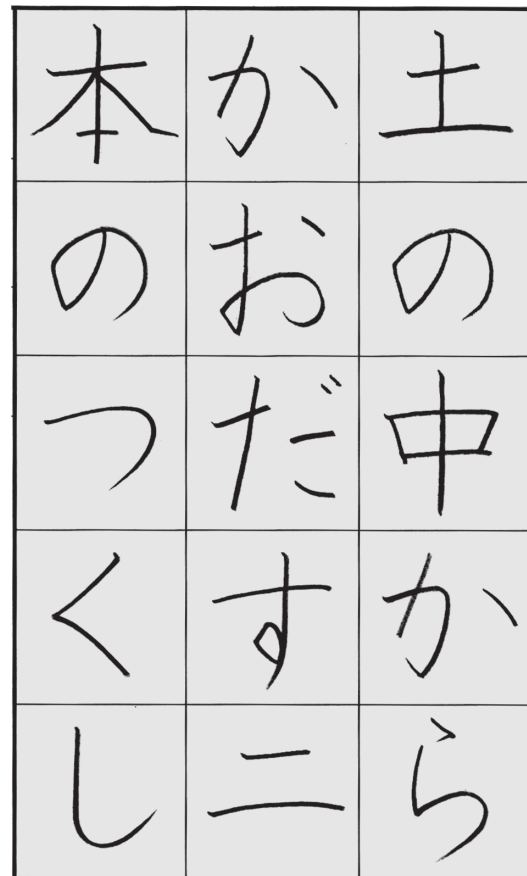
★新入は、年少・年中・年長の別を記入して下さい。  
★幼年は、全員8マス用紙で出書して下さい。

◆ひらがなトレーニング(なぞってかいてみよう)



〈ようぐ〉自由(黒色にかきこむ)

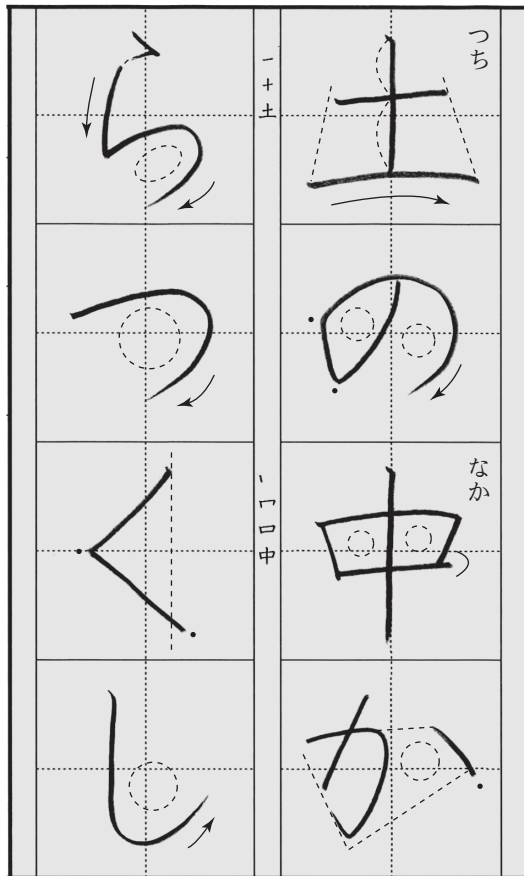
小  
一  
年



(注) えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。

準初段以上

新入〜1級



幼年〜小三年まで  
三宅容玉書

〈ようぐ〉自由(黒色にかぎる)

う	は
会 <small>カイ</small>	は
出 <small>デ</small>	び
る	よ

新入〜1級

会	は	明
に	つ	日
出	び	は
る	よ	歌
よ	う	の

準初段以上

小二年

準初段以上

色 <small>いろ</small>	湖 <small>みずうみ</small>
う	に
つ	空 <small>そら</small>
る	の

新入〜1級

色	晴	春
が	れ	の
う	た	湖
つ	空	面
る	の	に

準初段以上

小三年

準初段以上

(注) えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。



用具自由(黒色に限る)

並	担	タ
並	担	ニ
記	任	セ
記	任	シ
写	先	シ
写	先	シ
真	生	シ
真	生	シ

解説(よく見て習いましょう)

写	と	担
真	並	任
を	び	の
と	記	先
る	念	生

小六年

(全頁)

め	の	恩
花	気	師
束	持	に
贈	ち	感
る	込	謝

中二・三年

(行書)

理	に	私
屋	家	の
さ	族	誕
ん	で	生
へ	料	日

中一年

(行書)

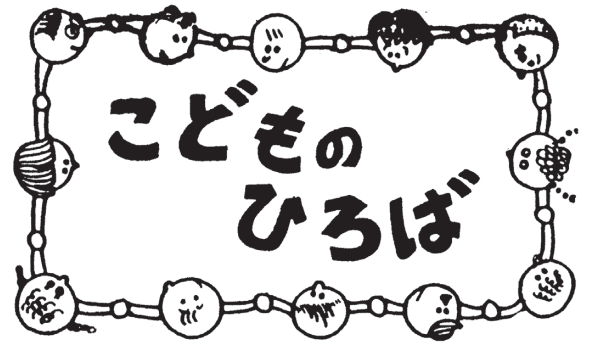


▼小三年以下の課題 い とう てい こう  
伊 藤 汀 香 書

※お母さんかあ＝単語としてこのように読みます。

◎お手本はえんぴつ使用

大 <small>だい</small>	両 <small>りょう</small>	ハ	作 <small>つく</small>	お
す	方 <small>ほう</small>	ン	る	母 <small>かあ</small>
き	と	バ	コ	さ
だ	も	ー	ロ	ん
		グ	ツ	が
			ケ	
			と	



しめきり 3月22日 (必着)

習っていない漢字は  
ひらがなで書いてもよろしい。

▼小四年以上の課題 こん どう が こう  
近 藤 雅 洗 書

よ	折 <small>お</small>	物 <small>ぶつ</small>	入 <small>はい</small>	光 <small>ひかり</small>
う	れ	体 <small>たい</small>	る	は
に	曲 <small>ま</small>	は	と	水 <small>みず</small>
見 <small>み</small>	が		屈 <small>くつ</small>	の
え	っ		折 <small>せつ</small>	中 <small>なか</small>
る	た		し	に

◎お手本はつけペン使用

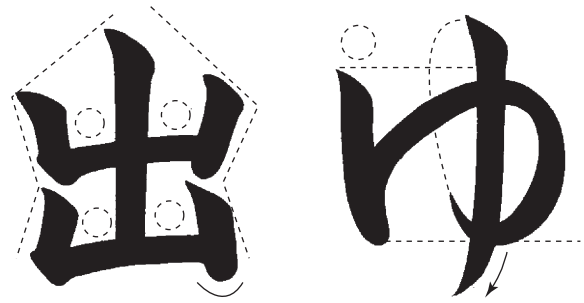
◇作品の出し方

- 一、選定用紙（五行・四行）に書いて下さい。
- 一、作品には、支部名（校名）学年、氏名を書き入れて下さい。
- 一、筆記用具は自由です。（黒色に限る）
- 一、四行用紙を使用してもよろしい。その場合は、文章を適当に短くして下さい。
- 一、成績は評価により毎月変わります。
- 一、支部会員は、出品ラベルを必ず貼って下さい。貼っていない方は新入とみなします。





幼年〜小二年  
酒井智仔書



小五  
 小 青  
 鳥 い

色 空  
 小三  
 の

雪 空  
 青 色  
 鳥 白

小四  
 ひ 白  
 め 雪

小三〜小五年  
 水野碧友書

中二・三  
 感謝 恩師に

小六〜中二・三年  
 玉樹小華書

小六  
 写真 記念

誕 記  
 感 写  
 謝 私

※行書では画のつながりに注意しよう

中一  
 私 の 誕 生日